

未来をつくる子ども・若者 応援事業

2020年度

実施報告書

未来をつくる子ども・若者応援事業について

愛知県では、全ての子ども・若者が健やかに成長し、自立・活躍できる社会を実現するため、「子ども・若者育成支援推進法」に基づく「都道府県子ども・若者計画」として、2018年8月に「**あいち子ども・若者育成計画2022**」を策定し、本計画に基づき各種施策を推進しています。

本計画では、「**未来をつくる子ども・若者の活躍促進**」を施策目標の一つとして掲げ、愛知の子ども・若者が未来に向かって夢や希望を持って前進できるよう、活躍を後押しすることとしています。

その取組の一環として、社会全体で対応を問われる諸問題に対し、当事者である子ども・若者が、社会参画に繋がる機会をつくることを目的として、「**未来をつくる子ども・若者応援事業**」を計画しました。

本事業にて開催した、子ども・若者が意見を交わし合い、課題解決に向けた提言を発表する「**未来をつくるユース会議**」と、世界で活躍する方からいただいた、子ども・若者に向けたメッセージを一冊の報告書にまとめました。



目次

未来をつくるユース会議

1 開催概要	2
2 ファシリテーター	2
3 会議内容	3
4 高校生の提言（尾張会場）	4
5 参加者の声（尾張会場）	11
6 高校生の提言（三河会場）	12
7 参加者の声（三河会場）	17

グローバルに活躍する方から 子ども・若者へのメッセージ集

プロバレーボール選手 石川 祐希 さん	19
国際連合地域開発センター（UNCRD）所長 遠藤 和重 さん	20
（公財）愛知県国際交流協会 愛知県青年国際交流機構（IYEO愛知） 近藤 花映 さん	21
名古屋国際工科専門職大学 教授 佐藤 久美 さん	22



「未来をつくるユース会議」



テーマ「グローバル社会で活躍するために」

近年、様々な場面で国境を越えて連携する機会が増える中で、SDGs（持続可能な開発目標）の達成に向けて、若者にはグローバルな視点での取組が求められています。「グローバル人材になるためにはどうしたらいいか。」「グローバルな課題解決のために私たちができることは何だろう。」など、皆さんと一緒に考えてみませんか。



1 開催概要

会場	日時	場所	参加人数
尾張会場	2020年12月19日（土） 14：00～16：30	名城大学附属高等学校 1号館 8階 大会議室 （名古屋市中村区新富町1-3-16）	43名 （名城大学附属高等学校41名 愛知高等学校2名）
三河会場	2021年3月15日（月） 10：55～12：45	岡崎城西高等学校 中央棟 3階 第1学習センター （岡崎市中園町川成98）	36名 （岡崎城西高等学校36名）

2 ファシリテーター



名古屋国際工科専門職大学 工科学部 教授 佐藤 久美 氏

南山大学卒業、名古屋大学大学院博士課程修了
博士（学術）

名古屋を発信地とする英文情報誌「Avenues」（1985年創刊）において、外国人に日本の文化・伝統・生活などを紹介。専門は国際情報学、地域研究。

3 会議内容

	主な活動内容
導 入	世界や日本の人口推移について共通の認識を持ち、グローバルに活躍するとはどういうことなのかの認識を深めるとともに、SDGs（持続可能な開発目標）の達成に向けた取組の必要性について紹介。
グループワーク	「グローバルな視点を持って、あなたのグループでは世界の課題解決のために何をしますか」をテーマに、各グループごとにSDGsのアジェンダのうち1つを選び、なぜその活動が必要とされているのか、活動内容とその活動によって得られる効果についてグループワークを実施。
発 表	各グループごとに、模造紙、画用紙、パワーポイント等を使用して提言発表。 発表後は他のグループからの質問や意見を受け付けた。



SDGs（持続可能な開発目標）とは、2001年に策定されたミレニアム開発目標（MDGs）の後継として、2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」にて記載された2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標です。17のゴール・169のターゲットから構成され、地球上の「誰一人取り残さない（leave no one behind）」ことを誓っています。SDGsは発展途上国のみならず、先進国自身が取り組むユニバーサル（普遍的）なものであり、日本としても積極的に取り組んでいます。（外務省ホームページより）

4 高校生の提言（尾張会場）

グループ	アジェンダ	提言内容
A		「table for two」という仕組みを利用し、双方の課題を解決する
B		土地に木を植えたい人（企業・高齢者）×働きたい人（若者）をマッチングするアプリの開発
C		発展途上国の子どもにZoomを活用した教育
D		日本に住む外国人児童・生徒の宿題支援を行う
E		学校からジェンダー不平等をなくしていく
F		海の生態系を守る！漁業従事者の雇用を守る！観光資源としての海の価値を高める！
G		生徒同士が授業をするしくみをつくる
H		企業と学生をつなぐ（SNSで学生の優秀なアイデアを採用し、企業が実行する）
I		フェアトレード（公平・公正な貿易）について、教育現場において知る機会をつくる



15. 陸の豊かさも守ろう

陸上生態系の保護、回復および持続可能な利用の推進、森林の持続可能な管理、砂漠化への対処、土地劣化の阻止および逆転、ならびに生物多様性損失の阻止を図る



プラスチックの代替として紙を使うのがトレンドになっているけど森林伐採が心配！

土地に木を植えたい人（企業・高齢者）と働きたい若者をマッチングするアプリを開発する。若者の雇用確保や高齢者の孤立化対策にも有効！

他のグループからの意見・感想

高齢者でも使いこなせるアプリを開発しないといけないね。

一つの問題を解決すると、さまざまな問題解決に繋がっていくんだ。

佐藤先生のコメント

豊かな恵みをもたらす海は、私たちの出すプラスチックゴミによって汚染が進んでいます。「海のプラスチックの量は、2050年までには魚の量を上回る」などという予想もされています。しかし、プラスチックを紙に置き換えさえすれば良いわけではない、という重要なところに気がついてくれましたね。紙の原料となる木を計画的に収穫し、苗木を植えて育てることで、健康的な山里を維持するという視点で森林保護を考えたいですね。

便利さを追求して使い捨ての製品をどんどん使うようになった文化そのものを変えていく必要もあると思います。

尾張会場

グループE

5 ジェンダー平等を
実現しよう



5. ジェンダー平等を実現
しよう

ジェンダーの平等を達成し、すべての女性と女児のエンパワメントを図る

制服1つとってもジェンダーに関する固定概念って根深く残っているよね。

私たちが身近にできる活動として、生徒会活動や署名活動で制服等の指定をなくすことが、ジェンダーの不平等をなくす第一歩になるのでは。



他のグループからの意見・感想

自分たちにとって身近な問題から解決していかないといけないことに気づかされた！

自分の身近にあるもの、考えが固定概念で作られてしまっているものが多いと気づかされた。

佐藤先生のコメント

ご自身の身近なところから、ジェンダー平等について考えてくれました。女子はスカート、男子はスラックスという固定概念が確かに制服にはありますよね。全生徒が多様な組み合わせができるような仕組みになると良いですね。近年、LGBTQの社会的課題の認知が進んできたこともあって、トランスジェンダーの生徒が自身の制服を選びやすいようにする高校も出てきました。引き続き、ジェンダー平等とは何かを考えて、そして行動に移してください！

17 パートナーシップで
目標を達成しよう

17. パートナーシップで目標を達成しよう

持続可能な開発に向けて実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する



良いアイデアがあったとしても若い人がそれを実現する事って難しいよね。

ツイッター等のSNSを活用して、学生の優秀なアイデアを企業採用し実現させれば、企業は多くのアイデアを得ることができ、学生は就職等で将来の選択の幅が広がる。

他のグループからの意見・感想

SNSに投稿することで、その後の人生が変わるかと思うと面白いな。

17は具体的にどのような取組をすればいいか分からなかったけど、SNSを使うことなら自分にもできるな。

佐藤先生のコメント

SNSを使いこなしている高校生らしい素晴らしいアイデアですね。少子高齢化社会を迎えた日本では、社会の課題を解決していく、若い人たちならではの斬新なアイデアを求めています。そして、そのアイデアを形にして新しい産業として育てていきたいと考えています。それが、世界の課題解決にもつながっていけば、国際貢献になり、まさに、「誰一人として取り残さない」とするSDGsの理念と一致しますね。



4. 質の高い教育をみんなに
すべての人に包摂的(※)かつ
公平で質の高い教育を提供し、
生涯学習の機会を促進する



発展途上国におけるZoomを
活用した教育（グループC）



日本に住む外国人児童の宿題
支援（グループD）

外国人児童の宿題支援を行うこと
により、勉強の楽しさ等を知ることが
でき、結果的に自分自身のためにも
なる（グループD）

生徒自身が授業を行う。
自分で授業を組み立てることで、興
味・やりたいことを見つめ直し、自分
の可能性を広げていく。（グループG）





2 飢餓を
ゼロに



2. 飢餓をゼロに

飢餓に終止符を打ち、食料の安定確保と栄養状態の改善を達成するとともに、持続可能な農業を推進する

「table for two」の仕組みを利用、
発展途上国・先進国双方の課題を解
決する。（グループA）

発展途上国では飢餓問題、先進国
では肥満が問題となっている。

14 海の豊かさを
守ろう



14. 海の豊かさを守ろう

海洋と海洋資源を持続可能な
開発に向けて保全し、持続可能
な形で利用する

なぜ海の豊かさを守る必要があるの？

- ・海の生態系を守るため
- ・漁業従事者の雇用を守るため
- ・海が観光資源になり得るから



豊かなサンゴ礁を守るため、海と共に暮らす人々の生活を守る
ために、電気はこまめに消したり、プラスチックの使用を減
らすなど、身近なところから始めてみる。（グループF）



1. 貧困をなくそう
あらゆる場所で、あらゆる形態の貧困に終止符を打つ



6. 安全な水とトイレを世界中に
すべての人に水と衛生へのアクセスと持続可能な管理を確保する



7. エネルギーをみんなにそしてクリーンに
すべての人々に手ごろで信頼でき、持続可能かつ近代的なエネルギーへのアクセスを確保する



16. 平和と公正をすべての人に
持続可能な開発に向けて平和で包摂的な社会を推進し、すべての人に司法へのアクセスを提供するとともに、あらゆるレベルにおいて効果的で責任ある包摂的な制度を構築する



12. つくる責任 つかう責任
持続可能な消費と生産のパターンを確保する



10. 人や国の不平等をなくそう
国内および国家間の格差を是正する

ファストファッションなど、安く商品が手に入るのはうれしいけど、生産者に正当な対価が支払われなかったり、劣悪な労働環境で働かされているのであれば問題だ。



フェアトレード（公平・公正な貿易）について、教育現場において知る機会をつくる。また、フェアトレード商品に触れる機会を提供する。（グループI）

SDGsの目標を達成するために私たち高校生ができることを改めて考えることができ、英語を道具として外国人とコミュニケーションをとっていかなければならないということに気づくことができた。

自分とはまた違った意見が出てきたり、同じSDGsのアジェンダについて話していても、全く別の視点から学ぶことができた。

自分たちで意見を出すことは、難しいよりもわくわくすることを身にしみて感じた。

短時間なのにプレゼンテーションのクオリティがみんなすごく高くて、自分に足りない能力がわかった。

普段考えないようなテーマについてみんなで考え、話し合い、意見をまとめるのがとても楽しかった。自分にはないアイデアや知識がたくさんあって刺激になったし、自分でも、今までだったら考えつかなかったようなアイデアを出すことができた。

知ることだけじゃなく、自分で考えることで多くの気づきを得られた。

6 高校生の提言（三河会場）

グループ	アジェンダ	提言内容
A	 <p>8. 働きがいも経済成長も すべての人のための持続的、包摂的かつ持続可能な経済成長、生産性向上と雇用の創出を促進し、労働者の権利と利益を保護する</p>	ベーシックインカムの導入
B	 <p>4. 質の高い教育をみんなに すべての人に生涯的学習の機会を公平で質の高いものをも提供し、生涯学習の機会を促進する</p>	質の高い授業のオンライン化
C	 <p>15. 陸の豊かさも守ろう 陸上生態系の保護、回復および持続可能な利用の推進、森林の持続可能な管理、砂漠化への対応など、生態系サービスの向上を図る。陸上生態系の保護と持続可能な利用の推進を促進する</p>	先進国の支援で発展途上国の森林を守る
D	 <p>5. ジェンダー平等を実現しよう ジェンダーの平等を達成し、すべての女性と男性のエンパワーメントを促す</p>	過去と現在の価値観のギャップを若者が埋める取組
E	 <p>14. 海の豊かさを守ろう 海洋と沿岸資源を持続可能な開発に向けて保護し、持続可能な形で利用する</p>	海洋汚染を防ぐために、小さな事でも自分たちができることをやり続ける
F	 <p>10. 人や国の不平等をなくそう 国内および国際間の格差を是正する</p>	ジェンダー、宗教、障がいの有無などの差別 → 互いに理解し、尊重することでなくしていける
G	 <p>5. ジェンダー平等を実現しよう ジェンダーの平等を達成し、すべての女性と男性のエンパワーメントを促す</p>	LGBTの人達をもっと声を上げられる社会を目指す

8 働きがいも
経済成長も

8. 働きがいも経済成長も

すべての人のための持続的、包摂的かつ持続可能な経済成長、生産的な完全雇用およびディーセント・ワーク(働きがいのある人間らしい仕事)を推進する



ベーシックインカムを導入して、低～中所得者の経済状況に余裕ができれば、国全体の経済の底上げもできるのでは

発展途上国では導入が難しいから先進国の協力が不可欠だね

他のグループからの意見・感想

人々の生活が安定することはすごくいいことだと思った。

財源をどうするかとか、課題も多いと思った。

自分が働いて稼いだお金が、税金としてたくさん取られるなら・・・

佐藤先生のコメント

ベーシックインカムは生活に最低限必要な所得が、すべての人に対して社会的に保障される仕組みのことです。この新型コロナウイルス禍で収入が減った人も多いため、注目されています。

人々は生活の不安から解放され、ブラック企業も存続しなくなるというメリットもありますね。一方で、莫大な財源が必要になるというデメリットもあり、現実に導入している国はほとんどありませんが、ドイツで実験が始まっているようですので、注目していきたいですね。

14 海の豊かさを
守ろう



14. 海の豊かさを守ろう

海洋と海洋資源を持続可能な
開発に向けて保全し、持続可能
な形で利用する

洗剤の節約

ゴミを捨てない

マイバッグの持参

水筒の持参

水を使い過ぎない

海洋汚染を防ぐために、小
さな事でも自分たちができる
ことをやり続ける事が大事！

ゴミを拾う

調味料を使いすぎない

他のグループからの意見・感想

海の豊かさを守るた
めの具体的な例が多く、
わかりやすく感じた。

日常的にできること
はたくさんある！

私達一人一人が考える
のも大事だけど、企業な
どの排水はどういう風に
解決するのか。小規模だ
けでなく大規模の所も考
えないと解決しない。

佐藤先生のコメント

海洋汚染の主な原因は年々増え続けている海洋ゴミによるものです。船舶の事故による油の流出、工業排水や生活排水なども汚染の要因となっています。ペットボトルやビニール袋などプラスチックを主としたごみを減らすことは大切なことです。

毎日の何気ない習慣や行動が、私たちに多くの恵みと気候の安定をもたらしてくれている海とつながっていることを意識しながら生活したいですね。

世界中の工場などで排水基準をしっかりと守ってもらえるような仕組みも必要です。大量生産、大量消費、大量廃棄のサイクルを変えていかなくてははいけませんね。

10 人や国の不平等をなくそう



10. 人や国の不平等をなくそう
国内および国家間の格差を是正する

ジェンダー、宗教、障がいの有無の差別



互いに理解し、尊重する

貧困や経済格差



寄付や募金に協力
必要な日用品を届ける



他のグループからの意見・感想

宗教をお互いに理解するために、義務教育で宗教について知る授業を増やすといいと思った。

現状を知る、世界を知ることが大切だと思った。
知らないと不平等にも気づかない。

佐藤先生のコメント

性別や年齢、障がい、人種、民族、宗教などが理由となる不平等について考えてくれましたね。世界の子どもの10人に1人が教育を受ける権利を奪われ、危険で有害な労働をさせられています。その大きな原因は貧困です。

フェアトレードの商品を選んで購入することも私たちにできる第一歩です。生産者と消費者の間で適正な価格で取引が行われるようになれば、開発途上国の人々も労働に見合った収入を得て、子どもに教育を受けさせることができ、構造を変えることにつながります。

SDGsは「地球上の誰一人として取り残さない（leave no one behind）こと」を誓い、発展途上国のみならず先進国自身が取り組む普遍的なものとなっています。

4 質の高い教育を
みんなに



4. 質の高い教育をみんなに
すべての人に包括的(※)かつ
公平で質の高い教育を提供し、
生涯学習の機会を促進する

質の高い授業を集め、オンライン
で誰でも平等に視聴できるようにする。
(グループB)



15 陸の豊かさも
守ろう



15. 陸の豊かさも守ろう
陸上生態系の保護、回復および
持続可能な利用の推進、森林の
持続可能な管理、砂漠化への対
処、土地劣化の阻止および逆転、
ならびに生物多様性損失の阻止
を図る

ボランティアや募金など先進国の私たち
一人一人ができる支援を (グループC)



過去と現在の価値観のギャップを
若者が埋めていく (グループD)

5 ジェンダー平等を
実現しよう



5. ジェンダー平等を実現
しよう
ジェンダーの平等を達成し、すべ
ての女性と女兒のエンパワーム
ントを図る

LGBTの人達の声をもっと聞きたい！
それができる社会を目指す (グループG)



7つの班がテーマを決めて発表することで、それぞれの人の意見を聞くことができ、よかった。SDGsという言葉はよく聞くけど、内容は詳しく知らなかったの、今回詳しく知ることができ、よかった。

自分と同じ意見や異なる意見を持つ人達とのディスカッションで、新しい事を知ることができ、理解を深めることができた。

今まである程度SDGsを学んできた中で、いろいろな人の意見が聞けて、面白いと思った。一方で、予備知識のない人が多い中で発表をしても、学びが浅くなってしまうのではないかと感じた。

普段自分が当たり前に行っていることについて、深く考えることができたので、今回はとてもためになる機会だと思いました。今はあまり意味ないと思って勉強していることも、将来自分の武器になると思って勉強していきたい。

今、世界がいろいろな問題で悩まされているのは知っていたが、こんなにも身近で、もう他人事ではないと思えたので良かったです。これからいろいろなことに興味や関心を持っていきたい。

ディスカッションのテーマとしてSDGsというものが範囲が広すぎて、もっと一つ一つについて深く考えていかないといけないのではと思ってしまった。このことについてさらに皆で話し合ってみたい。

グローバルに活躍する方からの 子ども・若者へのメッセージ集

プロバレーボール選手
石川 祐希 さん19

国際連合地域開発センター（UNCRD）所長
遠藤 和重 さん20

公財)愛知県国際交流協会
愛知県青年国際交流機構（iyeo愛知）
近藤 花映 さん21

名古屋国際工科専門職大学 教授
佐藤 久美 さん22

プロバレーボール選手 石川 祐希さん



氏名：石川 祐希（いしかわ ゆうき）

☆ 主な経歴等

イタリア・セリエA「パワーバレー・ミラノ」所属。日本代表選手。

小学4年生からバレーボールを始める。星城高校在学中、史上初の2年連続3冠（インターハイ、国体、春高バレー）を達成。

2014年、大学1年生時、当時史上最年少で日本代表に選出される。同年、イタリア・セリエAの強豪クラブ「モデナ・バレー」と契約。大学在籍中にイタリアで3シーズンをプレーし、卒業後も日本企業には所属せず、単身イタリアへ渡りプロ選手としてキャリアを積む。

6シーズン目となった今季は、日本人初の通算出場試合150試合、通算得点1,400点を達成。リーグ唯一のアジア人として活躍。

僕がプレーする「セリエA」は、世界最高峰のプロリーグと呼ばれ、イタリア人だけでなく世界中のトップ選手がプレーしているのが特徴です。チームメイトには、イタリアの他にフランス、スロベニア、ブラジル、カナダ、そして日本と、様々な文化背景をもった選手が所属しています。皆男性ですが、年齢は17歳から監督を含めると53歳まで。共通語はイタリア語です。つまり僕は、イタリアという国で生活しながらも、多様な文化が共存する組織に属し、「勝利」というチームのゴールに向かって、仲間と共に活動をしています。

その中で、僕が一番大切にしていることは、「自分を表現すること」です。日本だったら、お互いに「わかってくれる」という前提に立ち、相手の表情やその場の空気から、わざわざ言葉にしなくても物事が前に進む。一方イタリアは、自分の感情や意見を、言葉にして伝え合う文化を持っています。それはコートの上でも同じです。勝つために自分はどのようなプレーがしくて、仲間にとってどう動いて欲しいのかを言葉にして伝えることは、目標を達成するために必要なことです。どんなにプレーの上手い選手でも、Si・Noをはっきり言えずに優柔不断な態度では仲間からの信頼を得ることはできませんし、何も言わずにコートに立っているだけではボールは回って来ません。

そして「自分を表現する」というのは、自分とは異なる意見や考えを否定せず、一度受け入れようとすることを含みます。お互いが自分を表現し合うことで素晴らしいプレーが生まれ、仲間との絆が深まり、チームは強くなることを、僕はイタリアで学んでいます。そして、きっとそれはバレーボールだけでなく、すべての国際社会において共通することだと信じています。

所長
遠藤 和重 さん

氏名：遠藤 和重（えんどう かずしげ）

☆ 主な経歴等

1990年に国土交通省に採用され、道路交通をはじめとする社会インフラ分野において国内および海外のプロジェクトを経験し、UNCRD着任前は、復興庁岩手復興局次長として東日本大震災からの復興創生に取り組む。

これまで、国土交通省での仕事のほか、世界銀行や国際協力機構（JICA）へも出向。

京都大学大学院修了（工学）、米国ネブラスカ州立大学（地域計画学修士）。技術士（建設部門）、APECエンジニア。



先進国から途上国まで、すべての国が普遍的に取り組むSDGsは、いわば世界共通のものさしであり、世界の共通言語です。貧困、格差、紛争、環境保全など、世界が直面しているさまざまな課題を解決し、良い方向に導けるかどうかは私たちにかかっています。新型コロナウイルス感染症に伴い引き起こされた世界的な危機は、健康、社会、経済へ悪影響をもたらし、貧困撲滅への取り組みを3年遅らせる可能性があると言われます。このような困難な課題に対しても、Build Back Better「より良い復興」をするには、SDGsの実践が早道です。

SDGsの実践においては、すぐれた知見やノウハウを持つ日本が、世界で強いリーダーシップを発揮する好機であると思います。次世代の子供・若者・女性がSDGsの担い手として育ち、SDGsの目標年に向けて、愛知がけん引役になって、皆さんが、誰一人取り残さないための行動を世界へつないでいくことを期待しています。

世界が取り組むSDGsという目標を達成するためには、グローバルで幅広い視野を持ちつつも、ローカルな視点で、一人一人がSDGsを自分ごととしてとらえることが大事です。これからの皆さんの活躍を楽しみにしています。

近藤 花映 さん



氏名：近藤 花映 (こんどう はなえ)

☆ 主な経歴等

大学生4年時にフランスに留学。法律を専攻し、同時に英語・フランス語を学ぶ。

一般企業を経て2016年から愛知県国際交流協会に勤務。2019年に1ヵ月の休みを取得し内閣府主催の「世界青年の船」に参加。

帰国後は愛知県青年国際交流機構 (iyeo愛知) の活動にも従事している。

最初に留学したとき、常識が通用しないことや文化の違いに打ちのめされました。「日本だったら○○なのに」と、もやもやした気持ちがずっと残っていました。職種柄、このわだかまりを抱えたまま働いていけないと思い立ち、内閣府主催の「世界青年の船」に参加してきました！船という逃げられない空間に身を置くことで、嫌でも様々な異文化・意見に晒され、「目を逸らしてはいけない」という思いだけで乗り越えてきました。一番学んだことは、固定観念を持たないこと。信じられないようなことにも、否定や拒否ではねのけてしまわず、それはそれと受け入れることです。

国外に出てみると、自分の価値観や常識が全てではないと気づかされて、視野が広がります。今後日本は外国の方々が増えるでしょうし、海外に出ていかずとも触れ合う機会がたくさんあるかと思います。そういったとき、色眼鏡で見ず、良いところは取り入れる、受け入れがたいことがあっても否定しない、といった心持ちで、接して欲しいなと思います。

また、人生一度きり。色んなことを、もやもやしたまま流して欲しくありません。もやもやがあったら立ち止まって、もう一度やってみる、考え直して行動してみるのも大切だと思います。私は行動してみて良かったと本当に思います。今はコロナ禍で安易に飛び出していくことはかないませんが、自分と向き合うよい機会ではないでしょうか。

教授

佐藤 久美 さん



氏名：佐藤 久美（さとう くみ）

☆ 主な経歴等

名古屋国際工科専門職大学工科学部教授。博士（学術）。

英文雑誌「アベニューズ」編集長・発行人、「愛知万博フレンドシップ・フィルム・フェスティバル」（21か国の映画監督を招聘した映画製作事業）プロデューサー、金城学院大学国際情報学部教授などを歴任。

現在、「あいち国際女性映画祭」イベント・ディレクター、NPO法人「愛知善意ガイドネットワーク」理事長などを務める。

Broaden Your Horizons!

皆さん、「グローバル」という言葉をよく聞いたり、使ったりしていますよね。英語ではglobalとなりますが、元々はglobeという単語から来ています。the globeは、地球、地球儀などという意味です。そう、グローバルに活躍する、ということは、地球を俯瞰して自分の活躍できる場所を見つけていく、ということになりますね。地球儀を持っていますか？時々、クルッと回してみませんか？さて、10年後のあなたはどこにいますでしょうか？

世界中のニュースが毎日飛び込んできます。その中にはこれからの将来を不安にさせるようなニュースもあります。世界の人々が団結して取り組まなくてはいけない地球規模の課題も見えてきました。持続可能な開発のための17の国際目標（SDGs）は、貧困に終止符を打ち、地球を保護し、すべての人が平和と豊かさを享受できるようにすることを目指して国連が定めるものです。若い皆さんの新しい発想や活躍が期待されています。

あなたは世界の人々と出会ったときに、何を伝えたいですか？何を話したいですか？まずは、自分自身について、そして、自分の夢について語ってみませんか？コミュニケーションはそこから始まり、国境や言語を超えた連帯と活動へとつながっていくのです。どうぞ、自分を信じて、笑顔で未来を切り拓いてください！私たちが応援しています。

Broaden your horizons and good luck for your bright future!!

未来をつくる子ども・若者応援事業実施報告書
(2020年度)

2021年3月

愛知県県民文化局県民生活部社会活動推進課

〒460-8501 名古屋市中区三の丸三丁目1番2号

電話：052-954-6175（ダイヤルイン） FAX：052-971-8736

Eメール：syakaikatsudo@pref.aichi.lg.jp

<https://www.pref.aichi.jp/soshiki/syakaikatsudo/youthkaigi2020.html>

